



熊本再春医療センター医療連携室だより



再春

令和8年 第1号

発行所：熊本県合志市須屋2659番地
熊本再春医療センター
編集：地域医療連携室

KUMAMOTO SAISHUN MEDICAL CENTER

熊本再春医療センターホームページ <https://saishun.hosp.go.jp/>



健康フェスティバル

病院の理念

思いやりの心で
患者、地域、職員に愛される病院

病院運営の基本方針

1. 治し、支える医療の実践
2. 専門医療の推進
3. チーム医療の実践
4. 地域医療連携の推進と地域への貢献
5. 経営基盤の安定
6. 働きがいのある職場作り

Contents

1. 新年のご挨拶2
2. 診療科紹介【麻酔科】3
3. 放射線検査のご案内4~5
4. 病棟・部門紹介【8階病棟】6
5. 開放型病院登録医紹介【安成医院】6
6. 病棟・部門紹介【リハビリテーション科】7
7. 採用・異動職員からのごあいさつ7
8. 第19回健康フェスティバル8

新年のご挨拶

病院長 緒方 宏臣



新年あけましておめでとうございます、謹んで初春のご挨拶申し上げます。

旧年中も皆様方には医療連携を始めとして多大なるご協力とご支援を賜りまして誠にありがとうございました。改めて御礼申し上げます。

昨年を振り返ると、医療界にとってはあまり良い年とは言えなかったと思います。多くの公的病院の経営悪化（診療報酬の問題、物価高、等々）、看護師不足に代表されるような、特に若い世代の人材不足、その他数えあげればきりがありませんが、なんら解決されることなく2026年を迎えました。今年は診療報酬改定と、多少の補助金にて一時的には経営改善がみられるかもしれませんが、根本的な解決には至らないと思います。いわゆる2025年問題（すでに2025年は終わってしまいましたが）から次なる2030年、2040年とこのままの社会構造、年齢構成が続けば、さらなる混沌が続くものと思われま

さて、今年は丙午。「丙」は火の陽の性質、「午」も火の性質を持つため、非常にエネルギーギッシュでパワフルなエネルギーを持つとされるようです。こうした情熱的・行動的な意味合いから、2026年は「活気ある年」「経済が好転する年」とも言われており、医療分野でも新たな挑戦や変革の気運が高まる年と捉える見方もあるようです。ぜひ、そうなってもらいたいものです。

「熊本再春医療センター医療連携の集い」ですが、昨年は第14回目となり6月7日（土）

にホテル日航熊本において、熊本大学消化器内科 田中靖人教授をお招きしての特別講演をもって開催し、多くのご参集をいただきありがとうございました。なお、次回（第15回目）は令和8年6月13日（土）、同じくホテル日航熊本において開催予定ですのでご案内申し上げます。加えて、2027年3月に開催予定としている日本医療マネジメント学会第29回熊本支部学術集会は、当院を会長施設として事務局を担当（会場は「くまもと県民交流館パレア」を予定）することとなりましたので、多数のみなさまのご参加をお待ちしています。

昨年4月より消化器内科が再開しましたが、直江秀昭副院長と、大本佳奈先生の強カタッグにて順調に成果を挙げておられます。さらに同年6月には消化器外科と共に消化器センターを立ち上げ、コメディカル一体となったチーム医療を目指しております。また、2024年12月より菊池地域における第二種感染症指定医療機関となっておりますが、新たに感染症病床4床の整備を終え、今後の新興感染症への備えを行っております。当院の社会的責務としての地域医療支援病院、熊本県地域医療拠点病院、熊本県指定がん診療連携拠点病院、熊本県難病診療分野別拠点病院、救急告示病院、第二種感染症指定医療機関としての役割を胸に、真に「地域に必要とされる病院、へと職員一丸となって邁進していく所存でございます。皆様方には今後とも変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

◆スタッフ紹介

- ・柴田義浩（麻酔科部長）
麻酔標榜医
麻酔科専門医・指導医
- ・笹岡美有希（麻酔科医師）
麻酔標榜医
- ・内野眞理子（麻酔科医師・非常勤）
麻酔標榜医

◆診療実績

・麻酔管理症例（2024年度）	755例
内訳	
全身麻酔（各種ブロック併用を含む）	700例
脊髄クモ膜下麻酔／硬膜外麻酔	15例
伝達麻酔（局所静脈内麻酔）	27例
静脈麻酔ほか	13例
消化器外科	188例
呼吸器外科	71例
整形外科	492例
脳神経内科	4例

◆概要

熊本再春医療センターでは年間に約800症例の手術がおこなわれていますが、局所麻酔を除くすべての麻酔を3名の麻酔科医師が担当します。2024年度の麻酔管理症例の平均年齢は68.3歳、3歳から101歳まで幅広い年齢層の患者が手術を受けています。90歳以上の超高齢者も52名と全体の7%を占めており、さまざまな合併症を有する高齢者に対しても安全な麻酔管理が要求される時代となってきました。

周術期に合併症を併発することなく安全に手術がおこなえる環境を整えることが麻酔科医師の使命ですが、術中管理だけでなく術後鎮痛も重視した麻酔法を実践しています。以前からおこなっていた硬膜外麻酔に加えて超音波エコーガイド下神経ブロック等、術後鎮痛を意識した麻酔法を積極的に併用し、快適に周術期を過ごしていただけるような麻酔を目指しています。

最近では、脳神経内科医師と協力して、筋生検の麻酔法として超音波エコーガイド下神経ブロックをおこなっており、「痛くない筋生検」を目指しています（写真参照）。



放射線検査のご案内

放射線科部長 中島 康也
診療放射線技師長 岡原 継太

熊本再春医療センター放射線科は迅速・高精度な画像診断で
患者さんへの最良の医療をサポートし地域医療へのさらなる貢献を目指します。

当院では、地域の医療機関様とのさらなる連携強化を目指し、CT・MRI・RI 検査において、放射線診断医による確かな知見に基づいた読影レポートを迅速にお届けする体制を整えております。

これにより、先生方の診断の迅速性と質の向上をサポートし、患者様へスムーズで質の高い医療を提供いたしますので、ぜひ当院の高度な画像診断装置と専門医による読影体制をご活用ください。

【CT・MRI】

当院では、導入以来変わることのない高性能と豊富な実績を持つ 64 列 CT と 1.5T MRI を運用し、微細な病変も見逃さない高精細な画像を提供することで、先生方の正確な診断をサポートいたします。また、画像診断の精度だけでなく、患者様の安全性も最優先しており、CT・MRI の造影検査においては細心の注意を払って実施しております。さらに、MRI 検査時には患者様の体内金属等の医療材料に関する MRI 適合性を瞬時に把握できる検索システムを導入し、医療安全をさらに強化した検査体制で臨んでおります。



【RI（核医学検査）】

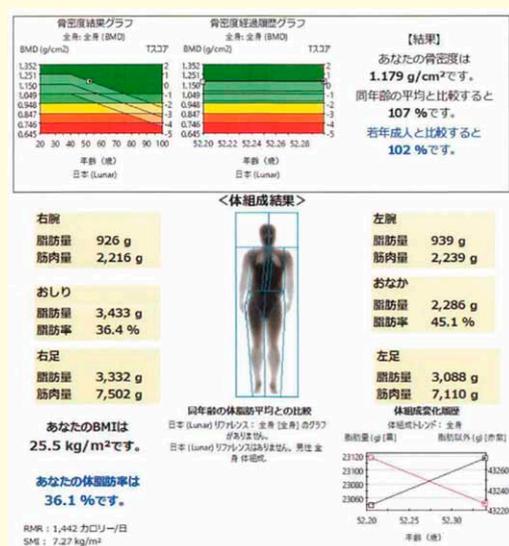
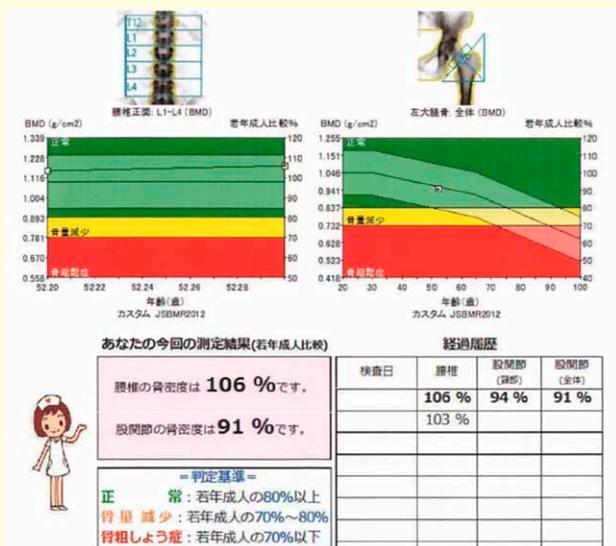
RI 検査は、臓器の機能や代謝を画像化できるため、CT や MRI では得られない生理的な情報を提供します。当院では、疾患の早期発見や、がん・心疾患・脳疾患などにおける病態の正確な把握に役立つ RI 検査に対応しております。特に、専門医による読影と組み合わせることで、得られた機能情報を最大限に活用したレポートをお届けし、貴院のより緻密な診断と治療効果の判定をサポートいたします。



主な RI 検査	検査目的
骨シンチ	骨転移
脳血流シンチ IMP	▶ 脳血管障害
脳血流シンチ ECD	▶ 認知症
DAT スキャン	▶ パーキンソン病
心筋 MIBG	▶ レビー小体型認知症
心筋ピロリン酸	心アミロイドーシス

【骨密度検査】

当院は、骨粗鬆症およびサルコペニアの診断において、ゴールドスタンダードである DXA 法（二重エネルギー X 線吸収測定法）による高精度な検査を提供しております。手や踵で測定する簡易法と異なり、骨折リスクの高い腰椎・大腿骨の骨密度を国際標準に基づき正確に評価可能です。さらに、この DXA 法はサルコペニア診断に必要な骨格筋量の測定においてもゴールドスタンダードであり、当院では体組成測定にも対応しております。測定結果は、分かりやすいレポートにまとめて迅速にご提供いたします。貴院における骨粗鬆症治療の適切な判断、そしてサルコペニアの早期介入と包括的な管理に、当院の高精度な DXA 検査をぜひお役立てください。



検査に関するご不明な点がございましたら、お気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ先：096-242-1000 (内線 330) 放射線科受付



病棟・部門紹介 No.26

8階病棟のご紹介

看護師長
遠藤 優希

8階病棟は、循環器内科・代謝内科・脳神経内科・消化器内科等の急性期の患者さんが入院される病棟です。ベッド数は46床で、約7割の患者さんは緊急入院されるため、患者さんが安心して治療に専念できる環境づくりを心掛けています。

各診療科では、主に虚血性心疾患、心不全、糖尿病、脳梗塞、消化器疾患の患者さんを受け入れています。

循環器内科は、虚血性心疾患、心不全や不整脈など一刻を争う疾患に対し、24時間のモニター監視体制で微細な変化をキャッチし、治療にあたっています。また、心不全患者の内服調整や生活習慣の指導を行っています。

代謝内科は、糖尿病をはじめとする代謝疾患に対し、血糖コントロールだけでなく、教育入院を通して患者さんが自宅で自分らしく過ごすためのセルフケアを支援しています。

脳神経内科は、脳血管障害や神経難病の患者さんに対し、急性期治療と並行して早期からリハビリ介入を行っています。

消化器内科は、炎症性疾患などに対し、内視鏡を用いた専門的な検査・治療前後の全身管理を行い、身体への負担を最小限に抑えた回復を目指し介入しています。当院は令和7年6月より消化器センターを開設し、外来・5階病棟・7階病棟と連携しながら受け入れています。患者さんの治療方針の決定から治療、退院先の決定など各段階において、患者さんが安心して治療が受けられるよう、医師・看護師・多職種と協力・連携しています。

病棟は病院の一番高い場所にあります。新たに開発された御代志駅周辺風景や阿蘇の山々に朝日・夕日が重なり眺める風景は、治療に励む患者さんやスタッフの大きな活力や癒しとなっています。療養中の患者さんの安寧はもちろん、付き添われるご家族もゆっくりと過ごせるよう、簡易キッチンや浴室の付いた特別室があります。特別室のご利用を希望される方は、スタッフまでお声かけください。



開放型病院登録医紹介

安成医院

院長／安成 英文

熊本県玉名郡玉東町木葉755-6

TEL 0968-85-2407 FAX 0968-85-2931

診療内容／内科・外科・小児科・生活習慣病・認知症外来・心療内科 等

診療時間／ 9:00～12:30

14:00～18:00

診察日・診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
9時00分～12時30分	○	○	○	○	○	○	-
14時00分～18時00分	○	○	○	○	○	-	-

安成医院 安成院長先生には、平成23年より当院開放型病院登録医として、多くの患者さんをご紹介いただいております。

玉名郡玉東町木葉の国道208号線沿いに位置し、内科・外科・小児科・心療内科・生活習慣病・認知症外来や訪問診療等幅広い診療内容に加え、CTや胃カメラ、エコー検査等充実した設備を有し、患者さんと地域に寄り添った診療をされています。



病棟・部門紹介 No.27

リハビリテーション科のご紹介

理学療法士長
口石 智秀

リハビリテーション科は、山下整形外科部長（リハビリテーション科部長）、藤本脳神経内科医師（リハビリテーション科医長）の下、理学療法士14名、作業療法士5名、言語聴覚士2名、事務員1名のスタッフで構成されております。「安全・安心なリハビリテーションの提供」を柱に業務に取り組んでおり、急性期疾患から神経難病、セーフティネット分野、小児科外来まで幅広く対応しています。

活動について、各診療科カンファレンスに参加することで、多職種との連携を図り、情報を共有し、患者さんにより良いリハビリが提供できるよう努めています。認知症ケアラウンドや摂食嚥下サポートチーム等に参加し、リハビリ職種の視点から意見を交換し、チーム医療への質を高めていけるよう取り組んでいます。子供たちの夏休み冬休みの時期に、多機能型通所事業「なかよし広場」においてリハビリを実施し、地域医療として貢献できるよう対応しています。外来は小児科のみ対応していますが、少しでも地域の子供たちへリハビリ提供が出来るように努めています。他にもありますが、様々な活動を通して、患者さん、地域医療に貢献できるようリハビリスタッフ一丸となって業務に励んでおります。

医療安全について、医療安全管理部会の委員として転倒予防を担当しています。他病院との医療安全相互チェックにおいて、転倒の対策方法をお互いに情報共有することで当院の転倒予防にも繋げていけるよう取り組んでいます。また、患者さんの移動能力が向上すると転倒が起きやすくなるため病棟と情報を共有し転倒対策を図っております。言語聴覚士においては、誤嚥による窒息等が起きないように、患者さんの食形態や嚥下機能の程度を病棟と情報共有おこない医療安全に努めております。

当院リハビリの特色として、整形外科でリバース型人工肩関節置換術をしています。他院では手術症例が少ない術後のリハビリを実施しております。また、パーキンソン病のリハビリにLSVTを実施しています。LSVTとは、動作の大きさを基本にした四肢運動系に対する集中訓練プログラム、感覚運動系の再教育です。LSVT資格を取得したスタッフが実施しております。他にも神経難病など他院では症例数が少ない患者さんのリハビリを実施しています。

患者さん、地域の皆さんに信頼される医療を提供するため、日々の研鑽を積み重ね、質の高いリハビリテーションの提供に努めていきます。今後もよろしくお願い致します。



採用・異動職員からのごあいさつ

小児科医師 古川 ちひろ

2025年10月から小児科医として勤務しております古川ちひろと申します。熊本大学を卒業し、熊本赤十字病院で初期研修を終了後、同病院の小児科、熊本大学病院 NICU、熊本労災病院、くまもと県北病院、阿蘇医療センターで勤務しておりましたが、この度、出産と1年間の育児休業を経て、こちらに赴任いたしました。

当病院の小児科は、これまでの勤務地で経験してきた一般小児の急性期分野に加え、重症心身障害児を中心とした慢性期診療にも力を入れている点が大きな特徴であると感じております。1年ぶりの臨床と慣れない慢性期管理、さらに子育てとの両立に日々奮闘中ではありますが、先生方やスタッフの皆様にご温かく支えていただき、学びの多い充実した毎日を過ごしております。

まだまだ至らぬ点も多く、ご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、子育て世代が増えている合志市において、子どもたちとご家族が安心して過ごせるよう努めてまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

脳神経内科医師 上山 卓志

この度、熊本再春医療センターで勤務することになりました、脳神経内科の上山卓志と申します。熊本大学を卒業後、九州大学病院で初期研修を行い、熊本大学病院にて勤務し、2025年10月より熊本再春医療センターで勤務することになりました。私の父もこちらで働いており、昔はこちらの宿舎に家族で住んでいたこともあります。そんな私にとって思い入れのある病院で医師として働くことができ大変嬉しく思います。脳神経内科は神経と筋肉の病を診療しますが、患者様の訴えは非常に多様です。分からないことだらけですが、患者様の一つ一つの訴えに真摯に向き合っていきたいと考えております。

至らない点が多くあるかとは思いますが、地域の皆様にご貢献できるよう尽力して参りますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

第19回 熊本再春医療センター 健康フェスティバル

庶務班長 野村 彩乃

第19回健康フェスティバルを2025年11月15日(土)に開催しました。約100名の地域の皆さまにご来場いただきました。

健康講座は小児科副部長の池田ちづる先生の「発達障害ってなあに?」小児科医長の百崎謙先生の「子どもが学校に行けなくなったら」の2本立てで講演をしていただきました。近年増加している発達障害や不登校問題に関して、支援や当院での現状などを講演いただき、保育士からは、当院での取り組みや小児科病棟での入院生活について説明いただきました。

催し物は、内視鏡に触ってみよう!、白衣体験コーナー、BLS講習、ミニ調剤体験&実験コーナー、3D画像を使ったクイズ、野菜測定チャレンジ、ヨーヨー釣り、体力測定コーナー、芸術作品展などを行いました。特に今年度は、講演テーマに沿って、子供向けのイベントを追加しました。特に「内視鏡に触ってみよう!」や「調剤体験」、「3D画像を使ったクイズ」は今年初試みでしたが、いずれも大盛況でした。

来年もさらに充実した内容で、地域の皆さまにご来場いただけるよう計画したいと考えています。

